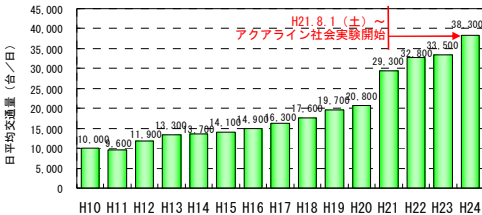


東京湾アクアライン料金引下げ社会実験 「平成24年度調査結果」概要版

交通

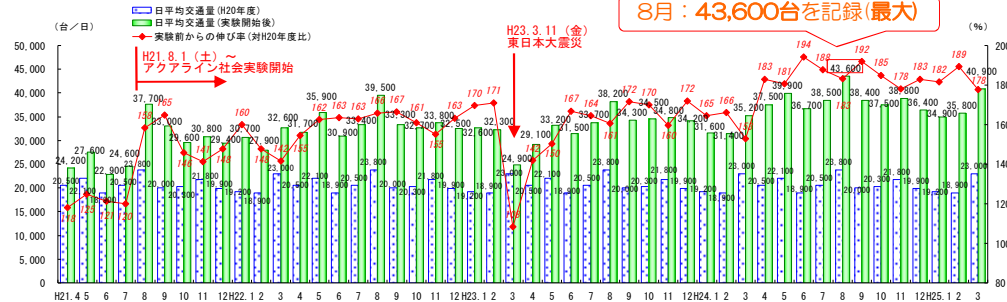
■ アクアラインの交通量は増加傾向

- 社会実験開始後、交通量は年々増加傾向が続いている。
- 平成24年8月に月平均交通量として最大の43,600台/日を記録。



車種	(単位:台/日)		①-② 増減台数	①÷② 対H20年度比
	①実験開始後 44ヶ月間平均値 (H21.8.1~H25.3.31)	②実験開始前 H20年度平均値 (H20.4.1~H21.3.31)		
全日	34,200	20,800	13,400	164%
小型	27,800	17,600	10,200	158%
大型	6,400	3,200	3,200	200%
平日	30,100	17,200	12,900	175%
小型	22,300	13,600	8,700	164%
大型	7,800	3,600	4,200	217%
休日 (土日休)	42,500	27,800	14,700	153%
小型	38,800	25,500	13,300	152%
大型	3,700	2,300	1,400	161%

【全日:全車】

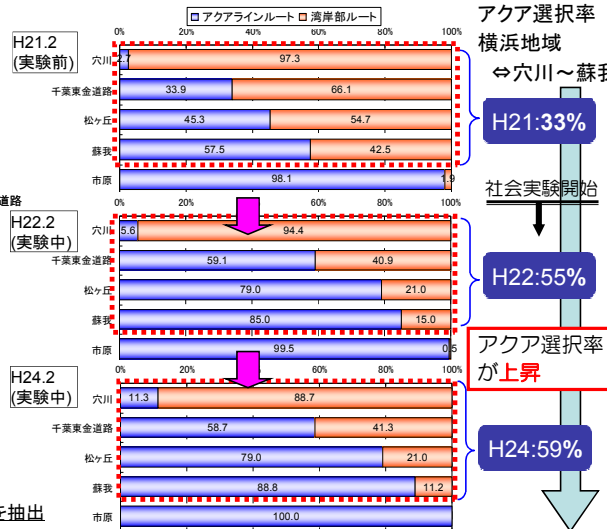
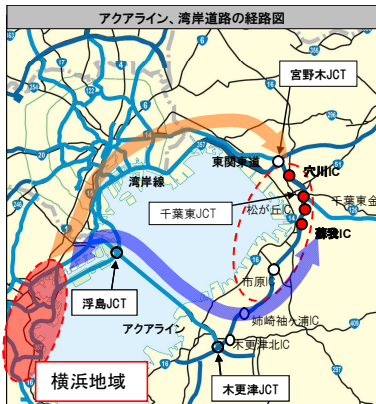


【利用交通量の推移(全車・全日)】

※NEXCO東日本提供資料(営業データ)による。

■ 湾岸ルートからアクアラインルートへの交通転換が進展

- 千葉方面と横浜方面において、ピーク時間帯における湾岸ルートからアクアラインルートへの交通転換が進展。社会実験後にアクアライン選択率が上昇。

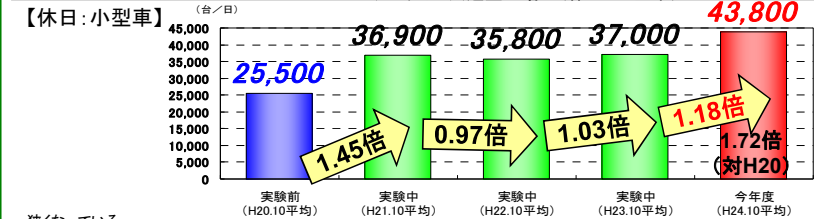


※NEXCO東日本、首都高速提供資料(ETCデータ)による。

観光

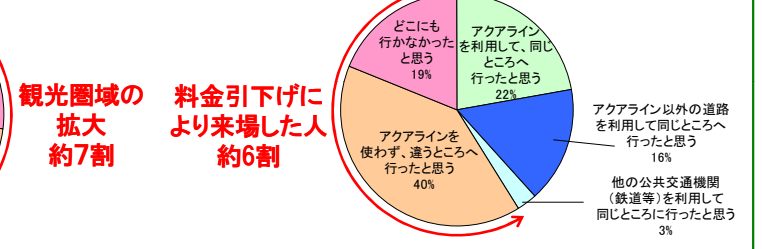
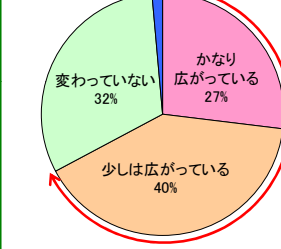
■ 観光圏域が拡大、料金引下げとアウトレットパーク開業との相乗効果によりアクアライン利用が増加

- アウトレットパーク開業(H24.4.13)を受け、休日小型車の交通量が今年度4月以降大きく増加。
- 観光客の約7割が「圏域が拡大している」と回答しており、観光創出効果も大きい。



※NEXCO東日本提供資料(営業データ)による。

【利用交通量の推移(小型車・休日)】



【料金引下げ社会実験による行動範囲の変化】
(千葉県以外への観光、n=712)

※webアンケート結果【H24】

【料金引下げがなかった場合の観光行動】
(アウトレットパーク、n=431)

※観光施設アンケート(アウトレットパーク)結果【H24】

物流

■ アクアラインの利用圏域が拡大

- アクアライン着岸地周辺地域から遠方のエリアなどで、利用圏域が拡大。

【平日:大型車】



※NEXCO東日本、首都高速提供資料(ETCデータ)による。

■ 経営・輸送の効率化、労働環境の改善

- 物流事業者の約5割が「物流コストが削減された」と実感、過年度調査より約7ポイント上昇。(過年度調査:H22年度調査(社会実験中))
- アクアラインに輸送ルートが変化した首都圏の物流事業者のうち、約8割が「湾岸ルート(京葉道路、東関東道)の利用が減った」と回答。時間短縮が図られていると実感。
- アクアライン利用による時間短縮から、運転手の拘束時間短縮に繋がっていると実感。(ヒアリング調査【H24】)

公共交通

- 高速バスの輸送人員は、東京都心部への通勤通学客により微増傾向。
- 「東京湾フェリー」および「JR内房線特急さざなみ」は、震災前に比べて、利用状況が依然下回っている。